摘花および摘蕾によるミニトマトの増収効果

着果量が増加する12月以降の花房先端部に着生する花及び蕾を摘除することで，１月以降の収量及び粗収益は増加

背景・目的

・ミニトマト栽培では，着果量が増加する12月以降，草勢が低下しやすく，１～２月の収量低下に大きく影響
・12月以降，果房先端部に着生する果実は小さく，開花から収穫までに多日数を要し，着果負担による収量低下の大きな要因
・12月以降の花房先端部に着生する，開花が極端に遅い花及び蕾の摘除がミニトマトの果実肥大，収量に及ぼす影響を検証

成果の内容

・１～２月に花房先端の20果目付近に着生する果実は，１果重が小さく，開花から収穫までの日数が長い（図１）
・12～１月に花房先端部の花・蕾を除去すると1果重が増加（図2，3）

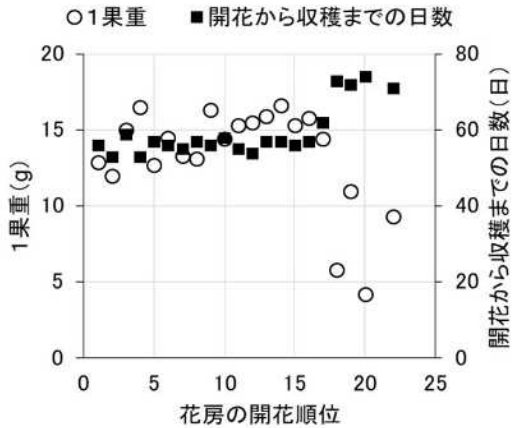


図1　開花順位と1果重，開花から収穫までの日数

図2　ミニトマトの開花順位と摘花・摘蕾の位置

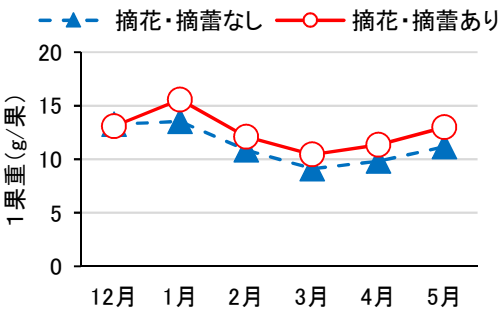
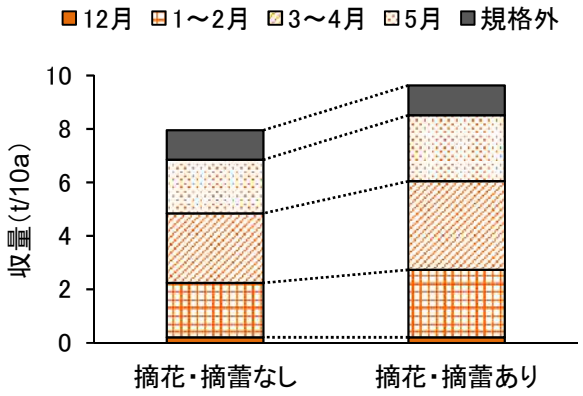


図3　摘花・摘蕾が1果重に及ぼす影響

期待される効果

○　商品収量が約20%増加



○　粗収益は約90千円/a増加

○普及対象・範囲　ミニトマト生産者

鹿児島県農業開発総合センター
園芸作物部野菜研究室

(R03)